



Rainbow color communication

にじいろ通信

つうしん

一人はみんなのために みんなは一人のために



丸岡公園の桜

CONTENTS

- P2・P3 各部門から新年度の御挨拶
- P4・P5 対談シリーズ「女性医師が輝ける病院を目指して」
(前村医師)×(吉峯医師)×(大久保医師)×(樫田医師)
- P6 帖佐クリニックからの紹介
- P7 心不全カンファレンスの紹介
- P8 2019年度4月の医局体制



各部門からの抱負

〈医局〉

新年度は医師数の減少もあり、体制が厳しくなることも予測されます。地域の「まちなか病院」としての役割を果たしていけるよう、これまで以上に多職種間での連携を深め、チーム医療で霧島・始良地域の医療の一端を担っていけるよう取り組んでいきます。

〈看護部〉

患者様・利用者様、ご家族の思いに寄り添い、受診・入院から退院後まで、どのように支援すればよいか考え、人と人とのつながり・地域で孤立しない関係づくりを大切にしていきたいと思えます。そして、地域の皆様と共に安心して暮らせる地域づくりを目指して参ります。

〈放射線部〉

国分生協病院は2017年11月に新築移転しました。これに合わせて放射線部ではMRI装置と全身用骨密度装置を新たに導入しました。MRI装置を導入したことにより、これまで評価出来なかった早期の脳梗塞や消化器系の疾患などが評価できるようになり、診断の幅が広がりました。また、今までは手指で評価していた骨密度検査が腰椎や股関節で評価できるようになり、これまで以上に診断と治療がしやすくなりました。私たち放射線部ではこれらの装置の機能を最大限に発揮できるよう、今後も研鑽を重ね、地域の患者様に還元できるよう頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いたします。

〈検査部〉

「あれはどうだろう」「こうしてみてもどうか」「私は、こう思う」「では、どうしよう」など、主体性を育む中で、生き生きといろんなことを語り合える職場をつくりたいと思います。ひとり一人の力が何倍にもなって、どんな困難にも立ち向かえるように、頑張っていきたいと思えます。

〈事務部〉

「病院の顔」として、患者さんと組合員、医療機関・施設等、地域の方々から信頼される病院づくりを目指します。そして、受付・会計やレセプト業務を行う「一般的な事務職」としての仕事だけではなく、実際の診療現場がスムーズに稼働出来るよう、「動ける事務職」としての質を高めていきたいと思っています。

〈リハビリ部〉

国分生協病院リハビリ部では、2017年11月に新築移転してから各病棟でのリハビリ室や、屋外での歩行訓練などが出来るリハガーデンを活用し入院、外来、デイケアと急性期から在宅期まで幅広くリハビリ部で介入しています。2019年度はさらに地域の方々に役立てるようなリハビリの提供を図っていききたいと思います。

〈食養部〉

食養部では二つの目標を柱に取り組みます。

一つ目は、「記憶に残る栄養指導」を目標に掲げます。」身近な媒体を活用して目で見て実践できる栄養指導に取り組みます。二つ目は、「チームワークで栄養管理」です。食事作りから摂取量把握までチームでスキルアップを目指します。

〈薬剤部〉

昨年秋より、病棟に薬剤師を常駐させ、霧島市内では初めてとなる病棟薬剤業務実施加算を算定しています。これにより、これまで以上にタスクシェアリングを進めつつ、他職種と連携しながら患者さんとのより密な関わりを通して、退院後の生活を見据えた薬物治療をサポートできるように取り組んでいきます。

他職種に相談しやすい環境は
ありがたいですね



対談シ

女性医師が 病院

腎臓内科 志織
吉峯
内科 清美
前村



4名の女性医師にて

榎田医師：今回は、「女性医師が輝ける病院を目指して」をテーマに、当院で働く女性医師にいろいろと聞いてみたいと思います。まず、最初に医療生協に入職を希望した理由を聞かせて下さい。また、入職してみてどういった印象を持ちましたか。

吉峯医師：最初に医療生協に興味を持った理由は、兄が鹿児島生協病院にお世話になっていたからです。その際にスタッフの方々がとても親切で好印象だったことをずっと覚えています。さらに、実家からも鹿児島生協病院が近いということもあり入職を決めました。入職後は国分生協病院赴任となりましたが、国分生協病院でも医師だけでなく、他職種のスタッフも含めて本当に温かく親切なスタッフの中働くことができています。

前村医師：私は、医療に関して総合的に勉強が出来ると思ったので、この医療生協に入職しました。入職後は、他医師や他職種とも

非常にコミュニケーションがとりやすく働きやすい環境であると感じています。

大久保医師：お2人とも充実した日々を送れているようです。先生達が考える、女性医師にとって働きやすい病院とはどのようなもののでしょうか。

吉峯医師：医師業務は、患者の状態により休み時間や時には家に帰ってから再度出勤が必要となることもあります。また、結婚している女性医師にとっては、女性が働くには家事や育児との両立が出来る環境が必要不可欠だと思います。

前村医師：吉峯先生と重なる部分でもあるのですが、①他医師や他職種とのコミュニケーションがとりやすいこと②ライフステージに合わせて、働き方が変えられること③仕事とプライベートのオンオフをつけて働けること、これらが必要不可欠と感じています。



組合員さんへのAED講習

リーズ

輝ける を目指して

糖尿病内科
榎田 久枝
呼吸器内科
大久保千香子



女性医師が輝ける病院を
私達で目指していきましょう



施設職員への学習会

大久保医師：医療業界だけでなく、どの職種にもいえることかもしれませんね。では、実際に女性医師が働きやすい職場として、今後どういった取り組みが必要になるでしょうか。

吉峯医師：私自身は結婚も出産もしていませんが、それでも日頃の業務の中で、男性と同じ体力や精神力で働くことは出来ないと感じることがあります。今後のためにも、院内保育所の整備や、産休育休制度の充実、休みの確保や、時間外業務を少なくするなどの取り組みが必要になると思います。

榎田医師：ありがとうございました。今後もますます女性が輝ける医療現場になるように、私達が頑張っていきたいと思います。地域の開業医の先生方、今後ともよろしくお願ひ致します。

研修医の中でも女性医師が頑張っています ～ 河野先生 ～

・当院で研修をされて、どのような印象を持ちましたか。

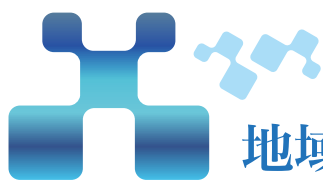
129床という規模は、他職種の顔がよくみえる大きさで何でも相談しやすい環境でした。また、地域のかかりつけ病院でもある一方で、霧島・始良地域の重症患者の受け入れもしており、地域の医療に欠かせない存在であると感じました。

・今後、どんな医師を目指したいですか。

来年度から麻酔科の専門研修を開始する予定です。専門の知識や技術を身につけるのはもちろんですが、手術を受ける患者、家族の不安に寄り添えるような麻酔科医になれたらと思いますので、地域の開業医の方、今後ともご指導の程よろしくお願ひします。



河野先生へのインタビュー



地域の開業医の先生方より

～ 医療法人 帖佐クリニック ～

医療法人 帖佐クリニック 院長 帖佐信行



1 当院の紹介

私は、昭和51年鹿児島大学を卒業し、鹿児島大学第2外科へ入局。心臓血管外科、一般外科、中でも末梢血管外科を中心に修練し、1999年3月に国分福島にて開院。今年で丁度20年目の節目を迎えました。地縁・血縁なく開院当初は大変苦労しました。

ベッドを持たないため外科医というより、生活習慣病を中心とした内科医としての日常の診療に当たっています。

2 当院からみた国分生協病院

外来では対処できず入院治療を要する場合やCT,MRI検査、判断に迷いより専門的な医療を要する場合、また在宅医療での訪問看護など生協病院様には大変お世話になっています。限られたスタッフの中で、日常診療、当直、救急対応と大変忙しく走り回っておられる姿に敬服致します。そのような中、紹介患者への丁寧かつ詳細な返書を頂き大変感謝申し上げます。

3 今後の当院の展望

これからの高齢化社会に向け、その受け皿として2012年11月にサービス付き高齢者向け住宅「なでしこ国分」を立ち上げました。入居者の紹介、緊急時の対応など国分生協病院様に多大な援助を賜り感謝申し上げます。

数年後は息子も診療に加わる予定ですので、より確実な診療体制と在宅医療を視野に地域医療に貢献したいと考えています。



心不全カンファレンスとは

当院では毎週水曜日に、日本循環器学会専門医の吉見医師を中心に心不全カンファレンスを開催しています。

このカンファレンスでは、心不全を中心とした循環器疾患をもつ患者に関して、様々な専門職が、患者、家族が抱える課題に対して、病気と付き合いながらよりよい生活ができるように取り組んでいます。多職種がそれぞれの専門領域の意見交換をすることで、病気を患ったとしても、早期の社会復帰に向けて、支援することが出来ています。

〈医師 田澤医師〉(日本家庭医療専門医)

普段の生活の場において、患者さんやご家族が大切にされていることは皆さん異なるのが当たり前です。患者さんのニーズは多岐に渡るため多職種協働が欠かせません。私は家庭医療専門医として、患者さんの生活背景や ACP(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)に配慮した診療の提案ができるよう心がけています。時には少々余命が短くなっても患者さんが生き活きと暮らせる治療選択肢を提案することもあります。「色々あったけど、良い人生だったな」と感じることができるようサポートしています。

〈リハビリ部 吉野〉 (心臓リハビリテーション指導士)

基本動作やADLの評価や呼吸苦の出現するタイミングを確認していますが、最も重要な課題は他職種に比べ患者と話す機会が多いため、その方の思いや生きがいを傾聴して会議に届けるよう心掛けていきます。

〈管理栄養士 宮原〉

入院中の食事摂取量や採血データから栄養評価を行うこと、各職種からの情報をもとに、患者の個性に応じた栄養指導を行うことです。また、一辺倒の説明ではなく、収集した情報と食習慣を聞き出し、嗜好や摂取量を経験に基づいて把握した上で、身近でより実践しやすい栄養指導を心がけています。



〈外来看護師 松田〉

入院前の通院状況(受診時の様子、性格、だれと来院していたが、受診手段など)をわかる範囲でカンファレンスに情報提供し、退院後の生活の目標設定を行います。カンファレンスに参加することで、患者教育が退院後の患者の生活に強く影響していることを学びました。

〈薬剤師 寺前〉

患者の薬や状態を把握し、より安全で効率的な薬物療法の提供を目指しています。入院中はもとより自宅での薬の状態、コンプライアンス・副作用など治療の妨げとなる要因の探索を行い、カンファレンス内で情報提供しています。

〈退院支援看護師 土原〉

自宅や施設での生活を維持していくためにはどういった心配があるのか、その心配を解決するために、利用できる介護サービスの導入をケアマネージャーと情報共有して対応させていただいております。

～私達の思い～

心不全カンファレンスに多職種で参加することで、患者教育が退院後の患者の生活に強く影響してきているということがわかりました。今後も、多くの患者に関わり、専門性を発揮しながら支援し、地域での生活につなげていきたいと思いをしています。

2019年4月外来体制変更についてのお知らせ

国分生協病院 病院長 山下義仁

拝啓、時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より、当院との医療連携につきましては格段のご支援とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

さて、当院は、一般急性期を担う医療機関として、限られた医師体制にて入院機能を保てるよう、2019年4月より土曜日の専門外来を閉鎖することとなりました。

従来通り、一般外来への紹介の方は対応させていただきます。急な変更で多大なご迷惑をおかけ致しますが、ご理解とご高配をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬 具

2019年 4月外来体制表 国分生協病院

		月	火	水	木	金	土	
午前	一般内科 (8:45~11:30)	中野	吉見	山下	山下(第1・3) 中野(第2・4)	吉見	山下(第1・3) 交替(第2・4)	
	専門 外来 (8:45~ 11:00)	循環器	吉見	中野	吉見	吉見		
		呼吸器	山下	檜田祐一	隈元		檜田祐一	
		消化器・肝臓		小坂元	長谷		長谷	
		腎・膠原病	前村良弘	吉峯		前村良弘		
		神経内科				武井		
	外科 (9:30~12:00)			税所		税所		
小児科 (9:00~12:00)	酒井	交替	酒井	酒井	【一般+特診】 森田(第1・2・4) 玉江(第3)	交替 2週目休診		
午後	内科	14:00~17:00	檜田祐一	檜田祐一		久保	久保	
		予約のみ 15:00~17:00		山下(禁煙外来)		武井(神経内科) 長谷	山下	
		17:00~18:30	交替	交替		交替	交替	
	小児科	予約のみ 予防接種/健診 14:00~16:00		(14:00~16:00) 交替 ※予約制・予防接種+健診		(14:00~15:30) 酒井 ※予約制・予防接種のみ	(14:00~16:00) 予約のみ 特診(第1・2・4) →森田 腎特診(第3)→玉江 ※(森田のみ14:00~ 17:30)	
		16:00~18:30 (金曜は予約のみ)	(16:00~18:30) 酒井 (一般+予約)			(16:00~18:30) 酒井 (一般+予約)		

※平日の専門外来への紹介は予約制となっていますので、事前にお電話をお願いします。

※4月より、一般内科の午前の受付時間を11時30分までに変更しておりますので、ご注意ください。

※急患の方は、従来通り電話(0995-45-4806)にてご相談下さい。



鹿児島医療生活協同組合
国分生協病院

〒899-4332 鹿児島県霧島市国分中央3丁目38-14
電話 (0995) 45-4806 FAX (0995) 45-4938
<http://kokubu-seikyo.jp/>